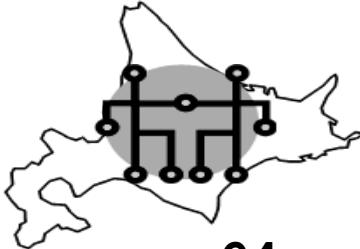


Do! ネット

北海道生活科・総合的な学習教育連盟 情報交流誌 令和4年7月 No.64



「広がり」を求め、「確かめる」一年に

北海道生活科・総合的な学習教育連盟

委員長 熊谷 雅史(札幌市立新琴似縁小学校長)



昨年度に引き続き、今年度も委員長を務めさせていただくことになりました、 札幌市立新琴似縁小学校 熊谷 雅史 でございます。

さて、4月23日(土)ライフォート札幌を会場に、オンラインと参集を組み合わせたハイブリッド形式で「令和4年度 全道総会」を開催することができました。この2年間は、書面交流での総会となっていましたので、全道各地区の皆様と顔を合わせながら開催することができ、大変嬉しく思っています。改めて令和3年度の取組の成果を確認し合うとともに、新年度の体制や具体的な活動が承認され、とても有意義な時間となりました。

また、その後に行われた「全道代表者研修会」では、各地区の活動報告や活動計画を交流し、7月の渡島地区・函館地区主管「全道夏季研修会」、10月のオホーツク地区主管「全道研究大会 北見大会」についても、具体的な内容や運営方法などが提案されました。

昨年度は、本連盟の活動のキーワードとして、『つながる』『挑む』ということをお伝えしました。皆様のご努力のお陰で、オンラインツールを駆使しながら、広い北海道の距離を感じることなく各地区との『つながり』を深めることができました。また、研修会・研究大会もオンラインの良さを最大限に活かした新たな形で『挑み』、大きな成果を得ることができました。今年度は、これに留まることなく、更に取組を前進させたいと願っています。

そして、今年度は『広げる』『確かめる』という二つのキーワードをお示しさせていただきました。『広げる』は、小学校教育にとどまらず校種を超えての学び合いを大切にするということです。生活・総合では、幼児教育、中学校教育以降の学びとのつながりが重要であるということは、言うまでもありません。小学校教育だけではなく、より広い視点で生活・総合を見つめることにより、更に学びが充実します。それと同時に、組織の拡大にもつながると考えます。また、『確かめる』は、新たに挑戦してきた実践や取組を基にし、それらをより確かなものにしていくということです。従来通りの活動にとらわれることなく、昨年度の斬新な運営を私たちの確かな財産にし、柔軟でより効果的な活動を工夫し更に高めていきたいと考えます。

今年度も、見通しをもった教育課程の実施が困難な状況が続いている。しかし、このような状況であるからこそ、「学校でしかできないことは何か」「子どもたちに育てるべき力は何か」という教育の在り方を改めて考えさせられました。この課題に正面から向き合い、解決に向けた具体的な教育活動の内容や方法を考えることがとても大切になります。子どもを主体とし、具体的な体験を通した学びのよさを実感されている本連盟の先生方は、その中心となって活躍されることと確信しています。

これからも「オール北海道」で力を結集し、「北の大地」で展開される確かな実践を全道、全国へと発信していきたいと考えます。この一年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

価値ある体験を通して 資質・能力を育てる ～子どもの姿で語れる実践を目指して～

研究部 小山 恒(札幌市立川北小学校)

研究主題

自ら学びの世界を拓げ よりよい自分を創る子ども



昨年度は、この場をお借りして、連盟としてウィズコロナの世の中だからこそ、発信できることを考えていく一年。そして、もう一度全道が結束して再スタートを切ることができる一年にしたいということを書かせていただきました。函館での全道大会では、オンラインでの開催となり、全道各地区の連盟会員の皆様と共に、「生活・総合の学びとは」「生活・総合で育つ子どもの姿とは」ということを改めて考えることができた大会となりました。そして、今年度は、各地区で実践を通して、これまで大事にしてきたことと、これからより一層明らかにしていかなくてはならないこと

を確認し、検証を重ねていく一年にしていきます。全道大会としては、昨年度の函館大会の成果や課題をオホーツク大会につなげていきます。学習指導要領下の生活・総合でどのような学習を進め、価値ある体験を通して、子どもに資質・能力を身に付けさせていくか、子どもの姿で語る授業を考えています。

「学び」を広く捉える

総会資料の研究主題でも提案していますが、我々生活・総合の実践者は、「学び」を広く捉える必要があると、これまで言い続けてきました。私たちが大事にしてきた「生活・総合の学習観・子ども観」が、学習指導要領に色濃く出ているとも考えられます。子ども主体の学びの在り方を考える際に、子どもが生き生きとした姿を表出できるような「学びの在り方」を考えていきたいと思います。

子どもにとって価値ある学びとはどのような学びなのか、理想とする学びの実現に向けて我々教師はどのような準備をする必要があるか…。制限がかかった教育活動の中で、生活・総合の本質が見えてきた今だからこそしっかりと足場を固める必要があります。

学習指導要領に示される「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点からの授業改善の実現に向けて、生活・総合の考え方は、これまで以上に大事にされ、また注目を浴びることでしょう。全道の力を結集し、生活・総合の理念を広げり、我々の果たしてきた役割やその成果を見つめるとともに提案「妥協なき検証」に励みたいと思います。

学ぶことの意味を捉える

学ぶことへの姿勢

学び方を身に付ける



対象と自分との関わりで学ぶ
学び方やものの考え方を身に付ける
自己の生き方を考える

これからの生活科・総合的な学習の時間

■これからの生活科

体験を振り返る活動や伝え合う活動を通して、気付きの質を高める生活科

- + 気付きの質を高めることの更なる重視

(言葉と体験の充実、気付いたことを基に考える 等)

■これからの総合的な学習の時間

問題の解決や探究活動の過程を通して、物事の本質を探って見極めようとする総合

- + 探究の過程を一層重視する

(探究課題とその解決を通して学ぶ資質・能力の明確化 等)

本連盟では、生活科や総合的な学習の時間で目指す授業の姿を上のように設定してきました。大事にしていきたい内容は大きく変わりませんが、学習指導要領にもある通り、「更なる重視」「より一層重視する」という言葉の意味を考え、理論構築や授業実践につなげていきたいと思います。また、「目指す子どもの姿」を、資質・能力を面から捉えることはこれまでと同様です。体験や活動を通して、教師は子どものどのような姿に「生活や総合の学びの価値」を見いだし、どのような姿から「資質・能力の高まり」を感じ、どのような「資質・能力」を育んでいこうとしているのかなど、教師の「見取り」や「評価」についても明らかにしていきたいと思います。

研究の重点の設定

重点を設けたのは、道連盟の在り方として、目指す方向性を一つにするためです。「授業づくり」の観点からは、資質・能力を高めるための授業の在り方を考える必要があります。生活科であれば「言葉と体験」「気付きの質の高まり」につながることであり、総合的な学習の時間であれば「探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力」に関する事になります。今年度は、これまでの全道大会での成果と課題を踏まえつつ、重点を以下のように設定します。重点①では、これまでのカリマネの視点を大切にし、授業改善を通して単元内に主体的・対話的な学びをどのように位置付け、深い学びにつなげていくのか。生活、総合としての深い学びを検証していきます。重点②では、見取りや評価の在り方を実践、検証、提案することです。子どもの育ちの通過点と、到達点を突き詰めて考えていった時、昨年度、一昨年度の実践の中で「見取り」「評価」に関する事例が多くみられたところです。各地区で、育てたい力を明確にしつつ、学び方や学びの姿を具体的に想定した取り組みに期待しています。

重点① 子どもの資質・能力を高める深い学びの在り方

【資質・能力の面からの検証】

- ・生活科・総合的な学習の時間を軸に！
- ・他の教科・領域等と関連させる効果、可能性！
- ・主体的・対話的な学びをどのように位置付けるか！

- ・学習活動全体を俯瞰
- ・単元配列表を基に
- ・生活科、総合としての深い学びの検証

重点② 子どもの資質・能力を高める見取りや評価の在り方

【「教師のかかわり」「指導方法」の観点からの検証】

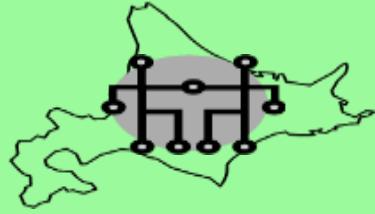
- ・育てたい力を明確に！
- ・学習の過程を一層重視！
- ・学び方や学びの姿を具体的に想定！

- ・子どもの育ちの
- ・到達点と通過点
- ・想定した、評価計画
- ・の作成

今後、実践を積み重ね、オホーツク大会の授業や課題別分科会のテーマとも連動させながら、精度の高い検証をしていきたいと考えています。今年一年、よろしくお願いいたします。

令和4年度

北海道生活科・総合的な学習教育連盟 全道総会



令和4年4月23日(土)ホテルライフオート札幌



ハイブリッド総会を開催

令和4年4月23日(土)、
本連盟の総会がホテルライフオート札幌を会場に行われました。会場に20名ほど参集し

た他、全道各地区からはオンラインで参加するといった、
昨年に引き続きのハイブリッド方式でした。

熊谷委員長からの挨拶に続き、蝦名事務局次長より令和3年度の各部の一年間の取り組みの様子が報告されました。また、令和3年度の活動計画では、引き続きコロナ禍ではあるけれど、オンラインを駆使したり、状況がよくなれば参集することも想定して、より有意義な活動を模索していくことを確認しました。小山研究部長からは、今年度目指す方向性が示され、全道大会、夏季研修会に向けて、

オンラインによる話し合いを重ね、準備を進めていきたいとの話がありました。最後に、今年度の新役員発表、事務局委嘱もされ、令和4年度の新体制がスタートしました。



《令和4年度 役員》



委員長

熊谷 雅史 (札幌市立新琴似緑小学校 校長)

副委員長

加藤 秀樹 (札幌市立南月寒小学校 校長)

渋谷 一典 (札幌市立三角山小学校 校長)

<各地区 会長・委員長>

監査

鵜飼 麻未 (札幌市立ノホロの丘小学校 校長)

理事

中川原 雅広 (札幌市立栄東小学校 校長)

事務局長

丹羽 洋彦 (札幌市立栄北小学校 教頭)

事務局次長

川見 明子 (札幌市立幌西小学校 教頭)

今年度も、総会以外は全道代表者研修会のみ行われました。

第1回全道代表者研修会の流れ



1 熊谷 雅史 委員長挨拶



2 経過報告



3 各地区的活動報告・活動計画

札幌・旭川・釧路・函館・留萌・オホーツク・渡島・上川・後志地区から、令和3年度活動報告と令和4年度の活動計画をお話いただきました。新旧交代した方も含め、オンラインで報告し合いました。どの地区ともオンライン研修が有意義な内容になるよう工夫を凝らしている様子が覗えました。子どもだけでなく大人も学びを止めていないことに感心させられました。



4 検討事項

(1) 次年度以降の全道大会・宿泊研修会について



5 今年度の活動について

(1) 全道夏季研修会について



7月30日（土）に開催される夏季研修会について、主管の渡島・函館地区よりお話しいただきました。文部科学省の齋藤調査官の講演の他、演習を行う予定だそうです。全道各地区から最近の実践交流や困っていることや聞きたしたことなどを意見交換する研修になりそうだと言うことです。みなさんが参加して肩肘張らずに話し合いができるといいですね。ぜひ皆さんで参加して会を盛り上げましょう。



(2) 全道大会オホーツク地区北見大会について



11月4日（金）に行われる全道大会について、オホーツク地区より説明いただきました。こちらもオンラインでの開催になります。参考していただく方も入れてハイブリッドで合計3本の授業を見ていただく予定です。授業を前撮りし課題別分科会を別日程で行います。昨年の函館大会をベースにオホーツク地区ならではのやり方を取り入れしていく予定とのことです。こちらも皆さんで参加して、盛り上げていきましょう。



6 連絡



5月に、臨時の全道代表者研修会を開くことについて。

- ①今後の全道大会・夏季研修会の開催地区について
- ②会計の在り方について

第30回 全道夏季研修会



1 期日 令和4年7月30日（土）9:00-15:10（受付8:45）

2 会場 渡島教育研究所

〒049-0111 北斗市七重浜5丁目11番20号

TEL 0138-49-4325

3 主催 北海道生活科・総合的な学習教育連盟

4 主管 渡島生活科・総合的な学習教育研究会 函館市生活科・総合的な学習教育研究会
南北海道情報教育研究会

5 研修会の実施形態 オンライン開催

※zoomを使用しますので、アプリのダウンロードをお願いいたします。

6 日程

| 9:00 | 10:00 | 10:10 | 11:15 | 12:15 | 13:30 | 15:00 |
|----------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|
| 全道代表者会議 | 開会式 | 研修1 | 研修2 | 昼食 休憩 | 講演会 | 閉会式 |
| 全道研究部研修会 | | | | | | |
| 全道情報部研修会 | | | | | | |

□講演会 【講師】文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官

齋藤 博伸 氏

【演題】「 未定 」

□研修内容 「見直そう！ちょっと聞きたい！いまどきの生活科・総合で困ったこと」

○学校の特色あるカリキュラムづくり

○目指すべき子供像の明確化と学校全体のカリキュラム・デザイン

○地域とともに教え合い、学び合う教材の開発をするための体制づくり

○授業場面のどこに「主体的・対話的で、深い学び」を位置付けるか

7 参加費 500円 ※参加費のお支払い方法は別途お知らせいたします

【申し込みお問い合わせ先】渡島生活科・総合的な学習教育研究会

右記のQRコードからお申込み下さい。

読み取れない方は、以下の問い合わせ先へメールをください

メール：kaji-hiroyuki@hokkaido-mori.ed.jp（森町立鷺ノ木小学校：事務局長 鍛治裕之）

TEL 01374-2-2069 Fax 01374-2-1009



6月20日（月）申し込み締め切り